

## 山縣市地域協働推進事業計画

### 1. 地域協働推進事業を実施しようとする地域

- ・地域協働推進事業を実施しようとする地域は、山縣市全域とします。

### 2. 当該地域の公共交通の概況・問題点

#### (1) 概況

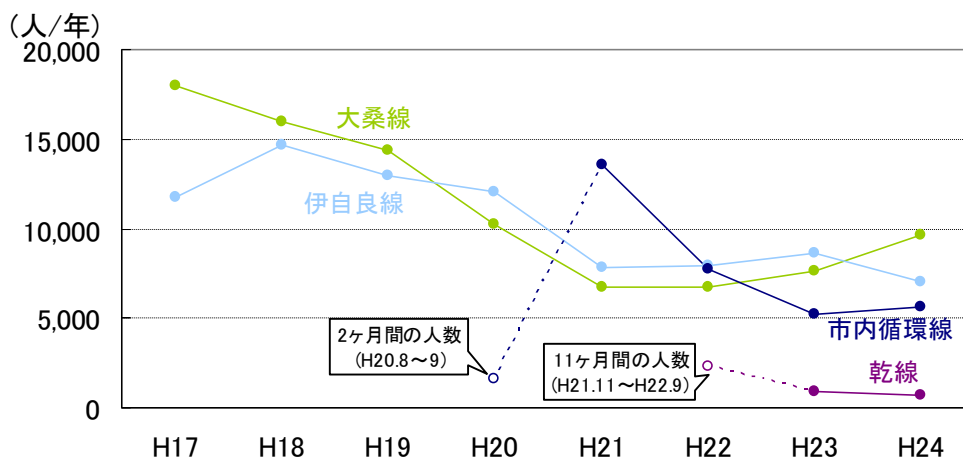
本市は、岐阜市の北側に隣接し、JR 岐阜駅及び名鉄岐阜駅から約 9～34 キロメートルと南北に広範に広がっています。本市の地勢は、山地丘陵部が多く、北端の日永岳を最高峰として枝状の山地・過疎地と、長良川支流の武儀川、鳥羽川、伊自良川沿いの平たん地・都市部で構成されています。

道路状況は、東西南北方向に国道や主要地方道路が配置され、東海環状自動車道の(仮称)高富インターチェンジの建設も予定されています。しかし、市内には鉄道がなく、車を運転することができない市民にとって、バスが唯一の公共交通となっています。

本市では、人口減少(平成7～22年の間に約8%減少)、少子化(平成7～22年の間に年少人口が約30%減少)の進行、自動車に依存したライフスタイルの進展(平成22年3月末時点で世帯あたり乗用車保有台数1.86台)などに伴い、バス利用者が大幅に減少しています。市では市民の足を守るために自主運行バスを運行していますが、バス路線を維持するための経費が増加する(市が乗合事業者へ支出した補助金は平成23年度決算で約1億500万円)一方で、下図のとおり利用者数は低迷しており、バス路線の確保・維持が困難となっています。

山縣市内を通過する公共交通は、岐阜バス3路線(岐阜高富線、岐阜女子大線、高美線)、自主運行バス5路線(岐北線、板取線、ハーバス大桑線、ハーバス伊自良線、ハーバス乾線)、関シティバス1路線(関板取線)が運行されています。

ハーバス 年間利用者数の推移



#### (2) 問題点

- ・ハーバスの利用者数は、大桑線で近年微増しているものの、全体では減少傾向にあります。市では公共交通不便地区の解消のため、H20年に市内循環線、H21年に乾線を新設したものの、利用者は伸び悩み、H24年には市内循環線が廃止となる等、

バスネットワークの崩壊が懸念される状況にあります。

- ・市民アンケート調査結果によると、普段バスを利用しない方が全体の9割を占め、地域のバス路線を把握していない方も多く、公共交通に対する意識が低い傾向にあります。また、ダイヤ改正により設定した乗り継ぎダイヤが実際に利用されないケースもあることから、バスの運行情報が十分に周知されていないと考えられます。

### 3. 当該地域において地域協働推進事業を実施する必要性

- ・これまで自主運行バスの計画・運営は、市が主体となって行ってきましたが、市民にとってより利用しやすい公共交通をつくるためには、市民(運営組織)、市、交通事業者が協働して、運行計画の作成、利用促進策を実施することが重要となります。
- ・公共交通ガイドブックの発行、バス停への乗継情報の掲示等バスの情報を提供し、バスの非利用者を含めた利用促進を図るとともに、地域ワークショップ、モビリティマネジメント等を実施し、公共交通に対する意識を高揚させ、自動車利用から公共交通利用への転換を図る必要があります。

### 4. 地域協働推進事業実施に際しての定量的目標

評価指標		現在値 (平成24年度)	目標値 (平成27年度)	
年間乗車人数	合計	189,710人/年	194,800人/年	
	自主運行路線	岐北線	117,477人/年	121,000人/年
		板取線	49,165人/年	51,000人/年
		ハーバス大桑線	9,647人/年	9,900人/年
		ハーバス伊自良線	7,052人/年	*12,000人/年
		ハーバス市内循環線	5,630人/年	-
		ハーバス乾線	739人/年	900人/年
	自主運行路線以外 (岐阜高富線、高美線、 岐阜女子大線、関板取線)	177,579人/年	183,000人/年	
合計	367,289人/年	377,800人/年		
全市民に占める 自主運行路線利用者の割合		7%	9%	

※ハーバス市内循環線は平成24年9月末をもって廃止。

\*ハーバス伊自良線は、ハーバス市内循環線からの転換分を見込んでいるため、他の路線に比べ目標値を高めに設定している。

### 5. 地域協働推進事業を実施する期間

- ・地域協働推進事業の実施期間は、平成25年度～平成27年度の3ヵ年とします。

### 6. 地域協働推進事業において実施する事業

別表に記載

### 7. その他特記すべき事項

なし

様式第5-1-1別表

取組み内容	年度		
	1年目 (平成25年度)	2年目 (平成26年度)	3年目 (平成27年度)
公共交通ガイドブックの発行 【市・岐阜乗合自動車】	公共交通ガイドブックの作成・配布	ダイヤ改正等に応じて更新・配布	ダイヤ改正等に応じて更新・配布
乗換情報の掲示 【市・岐阜乗合自動車】	幹線・神崎線の乗換案内の作成・設置	ダイヤ改正等に応じて更新	ダイヤ改正等に応じて更新
インターネットによる情報提供 【市・岐阜乗合自動車】	バスロケーションシステム対象路線の拡大		
地域バス調整会議等の開催 【市・市内各地区住民(14自治会連合会単位)】	地域バス調整会議の開催・地域運営組織設置検討(各地区)	継続して実施	継続して実施
モビリティマネジメントの実施 【市・岐阜乗合自動車】	高齢者向け・保育園児向けの体験乗車・講座の開催 アユカデータ分析・乗降調査による事前調査の実施	小学生向け・保育園児等向けの体験乗車・講座の開催 アユカデータ分析・乗降調査による事後調査の実施	中学生向け・保育園児等向けの体験乗車・講座の開催
無料体験乗車券の発行 【市・岐阜乗合自動車】	路線再編実施路線を対象とした無料体験乗車券の発行	継続して発行	継続して発行
割引乗車券の発行【市・岐阜乗合自動車】		一日乗車券等の発行	継続して発行
バス停ポールの更新 【岐阜乗合自動車】	バス停ポールの更新、ソーラーバス停スポットライトの設置		
車両の更新 【岐阜乗合自動車】	ノンステップ車両の導入		
観光客の利用促進 【市・岐阜乗合自動車】		イベント等に合わせた増便の実施	
バスヘルパー導入の検討 【自主運行バス沿線地区住民】	バスの案内や乗降のサポートを行う“バスヘルパー”導入の検討	バスの案内や乗降のサポートを行う“バスヘルパー”導入	

# 地域協働推進事業の実施に関する計画

## 公共交通ガイドブックの発行

### (1) 目的

- ・バスを利用しない人が多く、市民アンケート調査結果では、約2割の市民が地域を運行するバスのルート等の情報を知らない状況にあります。
- ・そこで、路線図や時刻表を掲載した「公共交通ガイドブック」を作成・配布し、普段利用しない方への情報提供により利用促進を図ります。また、日常的な利用者にも時刻等が簡単に確認できるようにすることで、利用の抵抗感をなくします。

### (2) 実施主体

- ・山縣市、交通事業者

### (3) 事業内容

- ・公共交通ガイドブックの作成・配布



### ※ガイドブックの構成

- ＞表紙（ダイヤ改正内容等を記載）
- ＞時刻表（市内の全バス路線）→全16ページ
- ＞乗継案内（ハーバス乾線⇔板取線・岐北線／岐北線神崎系統⇔岐北線  
ハーバス大桑線・伊自良線⇔岐阜バス岐阜高富線等）
- ＞料金体系
- ＞路線図（市内の全バス路線）

### ※仕様

- ＞カラー印刷
- ＞20ページ（表紙1ページ、時刻表16ページ、乗継案内1ページ、料金体系1ページ、路線図1ページ）

### (4) 発行部数

- ・全戸配布：10,000部、主要公共施設・バス車内等：3,000部

## 乗換情報の掲示

---

### (1) 目的

- ・ 岐北線神崎系統・ハーバス乾線沿線から高富方面へ利用する場合、岐北線・板取線への乗継が必要になりますが、幹線・支線ともに本数が少ないため、便によっては待ち時間が非常に長くなります。
- ・ また、ハーバス乾線と板取線の乗継バス停である乾公民館前／出戸では、のりばが離れており、バスに乗り慣れない方にとっては、分かりづらくなっています。
- ・ そこで、バス停に乗継情報を掲示し、どの便に乗ると、どのバス停でどのバスに乗継できるかを表示し、バスに乗り慣れない方にも分かりやすくします。

### (2) 実施主体

- ・ 山縣市、交通事業者

### (3) 事業内容

#### ① 掲示内容

- ・ 乗継時刻表
- ・ 乗継案内（出戸～乾公民館前の案内図、ayuca の乗継割引等の説明等）

#### ② 掲示箇所

- ・ 乗継バス停：2 バス停（谷合、出戸）
- ・ 支線バス停：30 バス停（登利～神崎、日永西～米野）  
（バス停については、各バス停ポールの時刻表の下または裏側に、乗換情報を掲載した案内を掲出）
- ・ バス車内：車内広告枠等に乗換情報を掲載した用紙を掲出
- ・ ハーバス、岐北線神崎系統の車両（4 台）

## インターネットによる情報提供

### (1) 目的

#### ① バスロケーションシステムの導入

- ・バスの遅れ時間などの運行状況を携帯電話・スマートフォン・パソコン等で確認できるサービスを提供し、利用者の満足向上と利用促進を図ります。（現在、岐阜バスで提供されているバスロケーションシステムを、市内自主運行バス全路線に拡大します）

#### ② ホームページの統合

- ・現在、携帯電話向けのホームページで市内バス路線の時刻等が公開されていますが、自主運行バスのうち岐北線・板取線は「岐阜バスホームページ（岐阜バスNavi）」、ハーバス大桑線・伊自良線・乾線は「山縣市ホームページ」と、別々に提供されているため、利用者に混乱を招く恐れがあります。そこで、全線を一つのホームページで検索できるように改善します。

### (2) 実施主体

- ・山縣市、交通事業者

### (3) 事業内容

- ・現在岐阜バスで提供されているバスロケーションシステムをハーバスに拡大。
- ・岐阜バス提供の「岐阜バスナビ」、民間の乗換案内検索サービス等に自主運行バスの情報を掲載し、自主運行バス全線が一つのホームページで検索できるように改善。

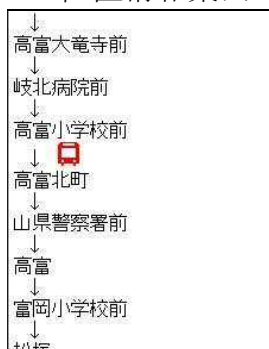
### ※コンテンツ

#### ① バス接近情報案内

バス接近情報案内 は花火大会に伴い、大幅なダイヤ 岐北病院前→高富
発時刻 行き先 運行状況[10:19現在]
10:14 N80 高富 発車済
10:30 N80 高富 ほぼ定刻で運行中
10:39 N85 谷合 約4分遅れで運行中

- ・各バス停に到着するバスの接近情報を携帯電話等で検索できます。
- ・各バス停のポールに設置されたQRコードを読み取れば、バス停名を入力しなくても、そのバス停のバス接近情報を表示できます。

#### ② バス位置情報案内



- ・各系統のバスが走行している位置を確認できます。

## 地域バス調整会議等の開催

---

### (1) 目的

- ・市民にとってより利用しやすい公共交通をつくるには、実際の利用者や地域の住民が運行ルートや運行ダイヤの検討を行うことが重要です。
- ・そこで、利用者や地域の住民を対象として、地域の公共交通の運行ルートや運行ダイヤを検討する調整会議を実施し、マイバス意識を向上させ、利便性を向上させるとともに利用促進を図ります。
- ・また、市民が公共交通の検討に参画できるよう、運行計画の検討や利用促進等を行うための市民組織（地域運営組織）の設置も検討し、ボトムアップ型の公共交通づくりのための仕組みの構築を目指します。

### (2) 実施主体

- ・市民（地区自治会連合会）、市がサポート

### (3) 事業内容

- ・地域住民を対象に、利用しやすい運行ルートや運行ダイヤの検討等、公共交通の改善についての検討会を実施。
- ・地域運営組織の設置を検討。

### (4) 実施回数

- ・検討を行いたいと自主的に手を挙げた地域において順次開催するため、回数は状況によって異なりますが、概ね年3回を想定します。

## モビリティマネジメントの実施

---

### (1) 目的

#### ① 高齢者向け

- ・山縣市では、自動車を運転する高齢者が多くなっています。そこで、高齢者の集まる場（介護予防サービス等）において、バスについての説明会（バスの利用方法、自動車運転のリスク、過度な自動車依存による影響等の情報提供）を開催し、公共交通ガイドブック等を用いて、バスの利便性を周知することで、バスの利用促進を図ります。

#### ② 中学生向け、③ 小学生向け、④ 保育園児向け

- ・多くの家庭では自動車や自転車の利用がほとんどで、バスに乗車する機会が非常に少なくなっています。そこで、中学生・小学生・保育園児を対象としたイベント等を実施し、バスに対する関心を高めます。

### (2) 実施主体

- ・山縣市

### (3) 事業内容

#### ①高齢者向け

- ・介護予防サービスに参加する高齢者を対象に、バスについての説明会（バスの利用方法、自動車運転のリスク、過度な自動車依存による影響等の情報提供）を開催。

#### ②中学生向け

- ・バスを利用して市内各地の施設や観光地をまわり、スタンプを集めるスタンプラリー等、ゲーム感覚でバスの乗車体験を実施することでバスへの関心を高めるイベントを開催。

#### ③小学生向け

- ・公共交通に関する出前講座（交通すごろく、バスの乗り方・マナー教室、実際のバスへの体験乗車等）を開催。

#### ④保育園児向け

- ・遠足等で外出する際に、バスを利用して沿線施設へ出かける等、バスの体験乗車を実施。

※各取り組みによる効果を把握するため、事前・事後に自主運行バス各線の乗降調査、IC乗車券利用履歴データによるOD集計等を実施し、バスの利用状況を分析します。

### (4) 実施時期・実施回数

	平成 25 年度	平成 26 年度	平成 27 年度
①高齢者向け	16 回	—	—
②中学生向け	—	—	1 回
③小学生向け	—	1 回	—
④保育園児向け	3 回	3 回	3 回

※乗降調査・IC乗車券利用履歴データ集計は、平成 25 年度に事前調査、平成 26 年度以降に事後調査を各 1 回実施。

## 無料体験乗車券の発行

### (1) 目的

- ・路線再編（運行ルート変更・ダイヤ変更）を行った路線の沿線住民に、無料体験乗車券を配布し、変更された路線をPRするとともに、利用促進を図ります。

### (2) 実施主体

- ・山口市

### (3) 事業内容

- ・路線再編を実施した路線の沿線住民に、対象路線に 1 乗車利用できる「無料体験乗車券」を発行。

### (4) 配布時期

- ・路線再編直後のタイミングで配布



## 割引乗車券の発行

### (1) 目的

- ・ 市民アンケート調査、バス利用者ヒアリングの結果、市内のバス利用者には、市街地で複数の施設を訪れるケースが多いことが分かりました。そこで、このような利用者への割高感や抵抗感を軽減するため、一日に何度でも乗り降りできる一日乗車券または一ヵ月定期券等の割引乗車券を発行し、利用促進を図ります。

### (2) 実施主体

- ・ 山縣市、交通事業者

### (3) 事業内容

- ・ 割引乗車券（一日乗車券または一ヵ月定期券等）を発行し、バス車内、公共施設、商業施設等で販売。

### (4) 実施期間

- ・ 半年以内の期間を設定し試験的に発行

## バス停ポールの更新

### (1) 目的

- ・ 市内に設置されている既存のバス停ポールは老朽化が進んでおり、一部のポールはバス停名称や時刻表が見にくくなっています。そこで、新型のポールに交換し、時刻表、系統図、お知らせ等の情報を見やすく掲示します。また、ポールが2本以上設置されているバス停は、1本に集約します。

### (2) 実施主体

- ・ 交通事業者

### (3) 事業内容

- ・ 市内全バス停のポールを新型ポールに交換。同一箇所に2本以上ポールが立っているバス停において、ポールの1本化。
- ・ 主要バス停においてソーラーバス停スポットライトを設置



## 車両の更新

---

### (1) 目的

- ・ハーバス大桑線、ハーバス伊自良線の車両は、乗降口に 2 段のステップがあり、バリアフリー化に対応しておらず、高齢者や障がい者にとって乗降時の負担が大きくなっています。また、購入後 20 年が経過し、老朽化が進んでいます。
- ・そこで、ノンステップバスを導入し、バス車両のバリアフリー化を図り、高齢者、障がい者等を含めたバス利用者の利便性を向上します。

### (2) 実施主体

- ・交通事業者

### (3) 事業内容

- ・車両を廃車し、事業者が所有するノンステップバスをハーバス大桑線、ハーバス伊自良線に導入します。

### (4) 実施期間

- ・平成 25 年 5 月

## 観光客の利用促進

---

### (1) 目的

- ・市内で開催されるイベントにバスを利用して参加したい場合、運行本数が少ないため、待ち時間の発生等、不便が生じています。また、バスの時間に合わせてイベントを開催することも、運行本数が少ないことから難しくなっています。
- ・そこで、イベントに合う時間帯に、臨時増便を行い、自動車を運転できない方にもイベントに参加できるようにします。

### (2) 実施主体

- ・市、交通事業者

### (3) 事業内容

- ・運行本数の少ない地域において、イベントを開催する際、臨時増便を実施。

## バスヘルパー導入の検討

---

### (1) 目的

- ・ハーバスには、病院への通院や買い物に出掛けるお年寄りの利用が多いことから、バス乗降時のサポートや、車内での利用者への案内を行うボランティアの導入を検討します。

### (2) 実施主体

- ・市、市民

### (3) 事業内容

- ・ハーバス各線に、地域住民によるボランティアとして“バスヘルパー”を導入し、利用者のサポートや案内ができないか、運営方法や組織化等について検討します。

## 買い物支援

---

### (1) 目的

- ・市民アンケート調査、バス利用者ヒアリングの結果、ハーバスは買い物目的の利用者が多いことが分かりました。しかし、店舗からバス停まで距離があるため、買い物後に荷物を持ってバス停まで歩かなければなりません。
- ・そこで、ショッピングセンター内にバスを乗り入れ、入口にバス停を設置することで、買い物の利便性を向上させます。

### (2) 実施主体

- ・市、交通事業者、ショッピングセンター

### (3) 事業内容

- ・ハーバス大桑線、ハーバス伊自良線を平和堂高富店の敷地内に乗り入れ、玄関前にバス停を設置します。

(参考) 地域協働推進事業の実施に必要な資金の額及びその調達方法			
事業の名称	補助対象経費 (見込み)	国費 (見込み)	地域の負担 (見込み)
公共交通ガイドブックの発行	5, 170千円	2, 585千円	(市) 2, 585千円
乗継情報の掲示	46千円	23千円	(市) 23千円
インターネットによる情報提供	1, 000千円	500千円	(市) 500千円
地域バス調整会議等の開催	1, 380千円	690千円	(市) 690千円
モビリティマネジメントの実施	2, 020千円	1, 010千円	(市) 1, 010千円
無料体験乗車券の発行	70千円	35千円	(市) 35千円
割引乗車券の発行	110千円	55千円	(市) 55千円
バス停ポールの更新	540千円	0千円	(交通事業者) 540千円
車両の更新	—	—	—
観光客の利用促進	35千円	0千円	(市) 35千円
バスヘルパーの導入検討	160千円	80千円	(市) 80千円
買い物支援	—	—	—
合計	10, 531千円	4, 978千円	5, 553千円